

コニカミノルタグループ  
2014年(平成26年)3月期  
第2四半期決算説明会  
主な質問と回答

日 時: 2013年10月31日(金) 18:30~19:30

場 所: 東京ステーションコンファレンス

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください

■ 情報機器事業関連

Q: 今回の通期業績予想見直しに関し、営業利益の増加分の内訳について教えてください。

A: 情報機器事業は為替影響による20億円を含めて通期で80億円の上振れを見込んでいます。コストダウンについては上期実績は47億円でしたが、年間計画80億円を上回るペースで進捗しています。また下期は新製品効果とプラットフォーム統一などにより同レベルのコストダウンを想定しています。下期における販売数量の増加はオフィスで上期に対して10%、PPでは新製品効果もあり、20%程度の増加を見込んでおり、利益増に貢献すると想定しています。

Q: 新規連結分を除いたベースでのノンハード売上に関して、現地通貨ベースの成長率を教えてください。

A: オフィスでは2%、PPは9%、全体としては約3%になります。

Q: 来年度におけるオフィス分野のA3MFPの市場成長率をどのように見ているか、教えてください。

また地域別の強弱を教えてください。

A: モノクロ期は昨年度、今年度に引続き減少すると見えています。カラー機は今年度と同程度、1ヶ台の成長率で市場の拡大が続くと予想しています。

地域別には、弱いと想定されるのは中国、北米は従来通りの強さを維持、欧州については南欧にやや不安が残るものの、当社が強い西欧などは堅調に推移すると思います。日本はアベノミクス以降、市況の改善が見られます。

Q: タブレットの普及により、ペーパーレスが進んで、情報機器事業に影響が出るということはありませんか？

A: 5年先にはそういうことも起こりうるかもしれませんが、向こう2~3年程度の時間軸で言えば、大きな影響は出ないと見えています。スマートホンやタブレット側でもプリンターとのインターフェイスを持っていたり、プリンターとの連携を進めたり、コンテンツを印刷したいというニーズに対応する動きがあります。スマートホンやタブレットのある環境で、そうしたデバイスと共存し、手軽に印刷できるデジタルワークフローを提供できるかどうかは今後重要になると考えています。

## ■ 産業用材料・機器事業関連

---

Q: 来年度における TAC フィルムの需要の見通しについて教えてください。

A: シェアについては今年度と同等かそれ以上を見込んでいます。市場についてはノート PC からタブレットなどモバイル端末へのシフトが続くと想定しており、モバイル端末でどの程度のシェアを取れるかが需要を左右すると考えています。

Q: 交換レンズを提供しているデジタル一眼カメラの市況は底を打ったと見ていますか。

A: 上期と比較すると、下期は改善すると予想しています。

Q: 携帯電話用レンズユニット事業の見直しについて教えてください。

A: 2つの側面があり、既存の携帯電話用レンズユニットは生産体制を縮小します。もう1つは、新規事業として検討を進めていたスマートホン用のレンズについても方針変更を行いました。いずれにしても、今後は採算重視の経営を一層徹底する考えです。

以上